

第3回子ども樹木博士リーダー交流会（概要）

- 1 日時・場所 平成17年12月17日（土）13:30～17:10
東京農業大学（東京都世田谷区桜丘1-1-1）
- 2 参加者等 18団体・41人
- 3 挨拶等 会長 木平 勇吉 氏（日本大学生物資源科学部教授）
幹事 宮林 茂幸 氏（東京農業大学地域環境科学部教授）
東京農業大学の紹介等
荻野 宏 氏（林野庁計画課森林総合利用・山村振興室課長補佐）
森林環境教育の推進について
- 4 講演 「複眼思考の大切さ」
講師 箕輪 光博 氏（東京農業大学地域環境科学部教授）
- 5 東京農業大学の見学（宮林先生の案内により，大学構内，「食と農」の博物館等を見学）
- 6 活動報告等 藤田 富二 氏（関東森林管理局高尾森林センター，森林インストラクター）
望月 力智 氏（茂原自然大好きクラブ代表，森林インストラクター）
松本 こずえ 氏（日本大学生物資源科学部学生）

7 意見交換等（主な意見等）

- ・北海道森林管理局駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンターの福浦氏から，「子ども樹木博士認定常設コース」の設定，認定活動の実施状況等について紹介と報告があった。
- ・茂原自然大好きクラブ代表の望月力智氏から，地元の（社）茂原青年会議所の主催により“子ども樹木博士イベント”を実施するようになったきっかけなどについて報告があった。
- ・子ども樹木博士だけで参加者を集めることは難しい面もあることから，行政等のイベントと組み合わせて，あるいはイベントの一部として実施するほうが参加者を集めやすい。例えば，木工教室，森林教室などと組み合わせて。
- ・実施する場合のスタッフは，参加者7～8人程度に1人くらいは必要である。参加者



が多くなれば、樹木のインストラクター以外のスタッフも必要になる。例えば、体調を崩したような参加者を病院につれていくなどの事態に対応するスタッフなど。

- ・小学校を対象とした日本大学の活動について、小学校の担任の先生が樹木に興味がある



ること、総合学習の一環として学校から要請されたことなどから、同じ小学校を対象に繰り返し実施しているケースが多く見られるとの報告があった。また、小学校では校内の樹種も少なく、何回か実施すると担当の先生が対応できるようになるとの話があった。さらに、学校の構内に常設のコースを作ると、理解しやすくなり、もっと興味も

湧くのではないかと意見もあった。

- ・学年等によってプログラムが違っていてもよい、低学年は触ってみるなど感覚的なものでもよい。リピーターなどは樹木名を覚えることに喜びを感じている。特に高段者にはリピーターが多い。
- ・テストは楽しくをモットーにしており、テストではなくクイズと言っている。(望月氏)
- ・親子で話し合って答えを出すことがあっても良いのではないかと。長時間親子で対等に樹木ツアーや話ができたり、親よりも子どもの方が良く知っている場合などがあり、親と子の関係がより緊密になれる場ともなる。点数だけではなく、長い目で考えて対応することが重要であるといった意見があった。
- ・子ども樹木博士の実施について、大学等では、実施を通じて「教える」ということにも意義がある。地域との関わりや自らの知識の向上などにも役立つ。地域(市町村、各種の団体など)で実施することに意義がある。地域の一体感の醸成されるとともに、スタッフも含めて参加者の多くが関心を持つようになる。山村に住む者は、周りに森林や樹木が豊富なのでかえって木の名前などを知らない者が多く、学校の先生も知らないことがある。子ども樹木博士の活動は、田舎でも取り入れることが重要。といった意見があった。
- ・子どもは何かをもらえることにも関心が高い。木で作った認定証やパウチした認定証などを喜んでいる。